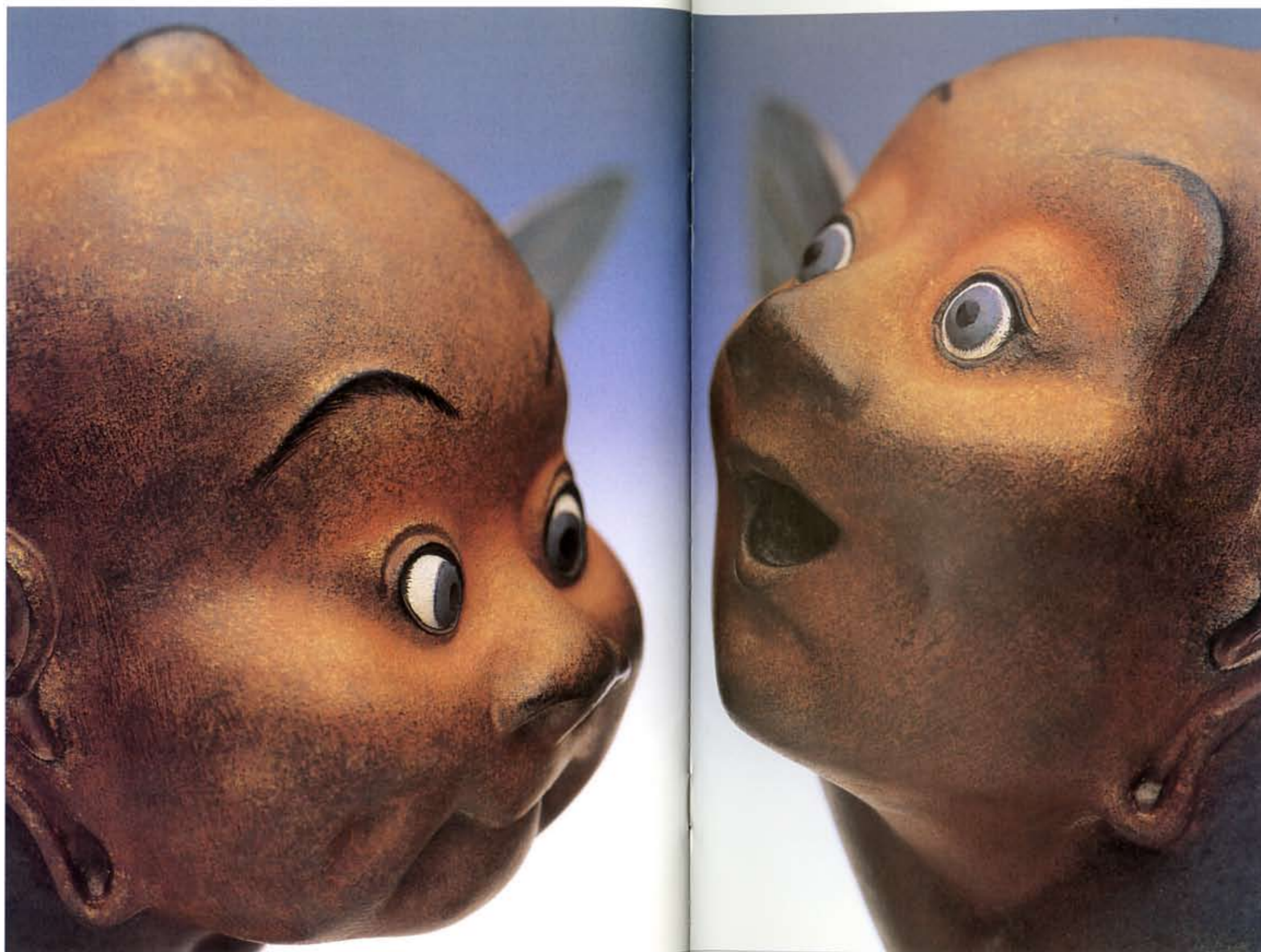


阿・吽



鮫内 佐斗司 作品:『真魚坊 (まなぼう)』'97年制作、精・漆・顔料
鮫内氏は、古文化財の保存と修復の経験に基づいた様々な技術を使用した本邦作品を通じて、日本人の心象風景や東洋的自然観を細かく穏やかな造形で表現している。そして滑らかな質感に満ちた命題天外的な作品世界は観る人を魅了してやまない。最近では木彫以外にブロンズの作品を多く手がけ、屋外や

公共空間にも活動の場を広げており、住民の視点に立脚したまちづくりに積極的に参加。また彫刻の他、装置や映像など多様な活動を取り上げ、オリジナルキャラクターを用いた商品の企画も行っている。一見軽妙に見えるその表現活動は、日本人が西洋近代主義的芸術観を受容する過程で見失ってしまった日本の造形美学を再構築しようとするものである。

1953年大阪市生まれ。東京藝術大学美術学部彫刻科卒業。同大学院美術研究科修了。1987年まで同大学院保存修復技術研究室において、古典技法と古文化財の保存・修復を研究する。この間、奈良市新薬師寺地蔵菩薩立像(影清地蔵)、新座市平林寺十六羅漢像等の修復に携わる。

- 主な公共コレクション：徳島県立美術館、セントルイス美術館、兵庫県立近代美術館、いわき市美術館、刈谷市美術館他
- 主な受賞歴：1985 第5回 天保彫刻部門大賞、1988 第11回 神戸須磨離宮公園現代彫刻展招待出品、兵庫県立近代美術館賞、神戸市緑化芸術賞、2003 第21回 平塚田中賞 他多数

撮影者 福永代志時

JAN・KEN・POM

里の奥、森の入り口、夜と朝のあわい
胡桃の幹にクマが爪を研ぐ頃
野ウサギが通るイノシシが通る
ヒトが通る
テンが振り返り向きキツネが仰向き
月の真下でJAN・KEN・POM
鬼が笑った

春は黄色、夏は赤色
秋は白色、冬は木の色
里が一面の花の色になる
イヌワシが青色立体の空を
野鼠啜まて旋回し
豊満な水を抱えた森は
天に向かって粟立っている

かくれんぼするものヨットイデ
まど生まれhumと隠れ
滝の頂、大楠の葉先、土の中から
時には遺骸の集積石灰の岩の下から
顔を覗かせる
アケビの実の間からも
永遠を遊ぶものたちが

アとライン、東の間のいのちのうしろで
囁いている
はじめとおわり、おわりとはじめ
はじめはどっちJAN・KEN・POM
石ははさみに、はさみは紙に、紙は石に
勝つ
ゆるりと大地が笑った